

## 教えてください、あなたのことを。⑱

東京都墨田区 西條 拓磨 さん



今回登場するのは若手会員さんの西條さん。  
ごみかん事務所にふらりと現れた10年前は東大の学生さんでしたが、この10年で卒業・就職・結婚と経て、今年にはパパになるそうです！  
いつもの5つの質問にまとめて答えてくださいました。

ごみかん会員の西條拓磨と申します。自然エネルギー（風力発電、太陽光発電）を開発する会社に勤務しています。会員歴は正確には思い出せないのですが、約10年になると思います。今回寄稿のお話をいただいてから思い返し、もう10年かあと感慨深く思いました。

私は子供の頃から環境問題に取り組みたいと考えており、大学では環境工学を専攻し、技術面からの環境問題へのアプローチを考えていました。一方で、人がどのように取り組めば環境問題の改善につながるのかも考えたいと思い、大学院では組織論から環境問題にアプローチするために、環境社会学の道に進みました。

そして、環境問題の解決という目標に賛同して集まった人の集合体であるNPOが、どのような変遷をたどるのか研究したいと思い、つながりを持たせていただいたのがごみ・環境ビジョン21でした。当時は理事会も見学させていただき、僭越ながら意見も言わせていただいたこともあり、若気の至り（まだそんな年ではないですが）だったなと思います。

さて、ここで今私が取り組んでいること・考えていることを書かせていただきます。今私は自然エネルギーの開発に取り組んでいますが、広い視点に立つと、なかなか難しい問題があるなあと考えています。自然エネルギーは発電時には化石燃料を使用しませんが、では環境への負荷がゼロかと言えばそのようなことはありません。発電機の生産、また発電所の建設ではかなりの環境負荷を与えますし、稼働中も慎重な運営が求められるものです。また、決して効率的な発電方法ではなく（天候で発電量が左右される）、ある程度の規模が必要になります。「自然エネルギー」も長所・短所を持つもので、やはり都合の良いエネルギー源はなかなか無いものです。

私は現代社会において、エネルギーのあり方は政治・経済・社会の鏡だと思っています。政治だけの問題でも、経済だけの問題でも、社会だけの問題でもない、相互に複雑に絡み合ったものです。「政治決断があればなんとかなる」ものでも「経済の発展により解消される」ものでも「社会（私たち一人一人が市民として）が動けば何とかできる」ものでもないと思います。一人一人がこの三つの側面を真剣に考え、行動していく中でより良い形になっていく、そのように考えて、日々仕事に取り組んでいます。

このように考えるのも、学生時代にごみかんの活動に関わり、NPOの現場を見させていただいたからかなと思っています。社会人になり、活動に参加することはなかなかありませんが、会報はいつも拝見し、陰ながら応援させていただいています。引き続き有意義な活動をよろしくお願いします。